



インタビュー

世界をリードする次世代型繊維科学研究の学術
基盤形成を目指して

季節のたより

京の風情、秋冬

特集

「京都工芸繊維大学国際学術交流クラブ」
各国連絡事務所からのメッセージ

トピックス

- ・ 2007年度日本留学フェアに出展
- ・ 外国人留学生実地見学旅行
- ・ 博士課程留学生在(社)繊維学会論文賞を受賞

京都工芸繊維大学
国際交流センター

〒606-8585 京都市左京区松ヶ崎橋上町1番地

Tel:+81-75-724-7128 Fax:+81-75-724-7710

E-mail:ab7128@jm.kit.ac.jp

<http://www.kokusai.kit.ac.jp/japanese/>

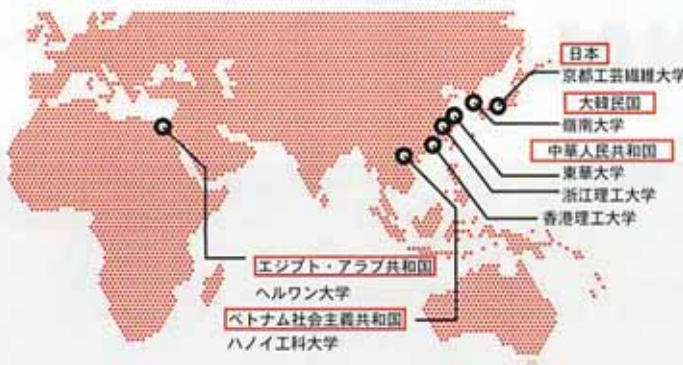
<http://www.kit.ac.jp/>

禁断転載

京都工芸繊維大学

世界をリードする次世代型繊維 科学研究の学術基盤形成を目指して

繊維科学センターが昨年四月に発足し新しい事業を模索していた頃、日本学術振興会のアジア・アフリカ学術基盤形成事業に繊維の分野で応募をしてみてもどうかという打診がありました。



第2回セミナーを2008年1月にエジプトで開催予定
http://www.cfts.kit.ac.jp/asia_africa/index.html

もちろんセンターとしては独自の研究教育を中心に進めていくのですが、海外との関係も非常に大事ですので、日本学術振興会に申請したところ、幸いにもその計画が採択され、プロジェクトを実施することになりました。

また同時に文部科学省の特別教育研究経費を申請しておりましたが、そちらも採択されました。これはいわゆるネオ・ファイバーテクノロジの、日本における研究センターあるいは研究の基盤を構築することを目指しています。すなわち、京都工芸繊維大学独自のカイコの遺伝子組み換え技術や乳酸などの生体成分を高分子化する技術を駆使し、環境に適合した新たなバイオファイバーやバイオミメティックファイバーの開発を目指すものなのです。言いかえると、今世紀型の新しい繊維技術開発というのは那邊にあるのか探ることを目的にしています。

海外との関係においては、日本の繊維技術基盤に基づいて世界的に繊維分野をリードしていく観点から、先ずアジア・アフリカから始めようということになりました。特に繊維原料の供給あるいは織

維の生産を支えているのはアジア・アフリカ地域ですので、この地域での繊維の学術基盤が世界の繊維産業を支える一つのプラットフォームになりうるという考え方でこの事業を進めていこうとしています。

繊維科学センター センター長
バイオベースマテリアル研究センター センター長
大学院 工芸科学研究科 生体分子工学部門 教授
木村 良晴



それがアジアの中でどこと組むのが良いのかという話になったときに、先ずは、アパレル関係で先進的な取り組みをし、ヨーロッパあるいはアメリカと密接な繋がりをもつ香港と韓国、それから世界の工場でもある中国、そして繊維業界においては新進の国であるベトナムの名前が挙がりました。ベトナムへは中国からも様々な技術移転が行われていますので、ぜひ連携していきたいと考えたわけです。ではアフリカではどこになるかと言いますと、本学と政府機関とのコンタクトもあり、本学と学術交流の基盤を築きつつあるヘルワン大学が立地するエジプトに参加してもらいました。将来的にはインドやイラン、さらにトルコなどにも声を掛けたいと思っています。

このプロジェクトで連携する六大学は、いずれも繊維研究に特色のある大学で、現在協定準備中のヘルワン大学を含めれば全てが本学の協定校ですので、このプロジェクトにより交流内容をより広くかつ充実したものにできると考えます。日本の繊維の技術は世界でもトップ水準にありますので、それをベースに技術移転をしながら事業展開に資するような国際的な新繊維の学術基盤をつくりたいと思っています。具体的には先ずは人の交流が大事だと考えます。我々が持っている技術を連携大学に理解してもらい、共同研究の進捗状況の確認と将来の連携強化への展開を協議するためのセミナーを開催していきます。特に若い世代の教育が大事ですので、若手研究者に多く参加していただき、若い世代との交流を図り、共同研究につなげていきたいと考えています。

京の風情、 秋冬

山々が鮮やかな紅葉に色づく京都の秋。京都三大祭りの最後を飾る時代祭が行われます。明治維新から江戸時代、安土桃山時代、南北朝時代、鎌倉時代へ、新しい時代から古い時代へとそれぞれの時代の衣装を身にまとい京の町を練り歩く時代祭、その始まりは明治二十八年にさかのぼります。

明治維新によって衰退を見せた京都の町おこし事業として、平安遷都千百年を記念して平安神宮が創建され、これを盛大に祭るべく時代風俗の変遷を表現する時代行列が挙行されました。

その規模は年々拡大して、現在ではおよそ二千人の仮装した人々が二キロにも渡り列をつくり、その華やかな行列は見るものに京都の歴史の奥深さを感じさせます。

古都に訪れる厳しい底冷えの冬。八坂神社では大晦日の除夜の鐘を合図におけら詣りの火を貰う人たちが溢れかえります。おけらとはキク科の葉草で、火にくべると強い匂いを発することから古来より魔除けとして利用されてきました。境内に灯されたおけら灯籠の火を火縄に移し火が消えないように持ち帰り、その火種で雑煮を炊くと一年間の無病息災がかなうとされています。

参拝者は竹の皮で作った吉兆縄（きしあはな）に火をともし、新しい年の訪れに胸を膨らませ家路につきます。



国際企画課長 吉井 勉

一九八五年に本学に留学生係が設置され、外国人留学生への修学指導や生活指導などの世話業務が本格的に稼働を始めて早二十年余りが経過し、現在では十二名の課員を擁する国際企画課が功刀国際交流センター長に指導のもと、センターの業務を担っています。本学開学以来の受け入れ留学生は世界約六十カ国千名を超え、本学を巣立ったOB／OGの多くは、日本国内はもとより、それぞれの出身国における、政治、経済そして教育・研究の各分野において社会的にも重要な立場でご活躍されています。この度、各国連絡事務所開設に当たって、それらのOB／OGの中から、小生が留学生係長在職中にもサポートを頂いた留学生に連絡事務所代表者としてご援助頂くことを再度お願いし、快くその大役をお引き受けいただきました。本学の魅力を広く世界に伝えると同時に、元留学生同士の連絡や、大学側からの公式情報を地域で広めて頂き、また、海外における日本留学フェアにも積極的にお手伝い頂いている次第です。今回はこれらの代表者から、代表者としての抱負などを交えたお便りをご紹介させて頂きます。

中国連絡事務所設置にあたって

中国連絡事務所代表
上海南大蘇富特信息技术有限公司 総経理



劉 曉民
(93年卒)

私が京都工芸繊維大学を卒業してから長い年月が過ぎましたが、その間国際交流センターの先生方、卒業生の先輩方、後輩の皆さんとの連絡を欠かしたことはありません。その中で、京都工芸繊維大学を多くの中国人留学生が卒業し、日本国内はもちろん、帰国後も各地で活躍していることを知り、卒業生同士のネットワーク、卒業生と在學生をつなぐネットワークの構築、強化を切に願っていました。

今回「京都工芸繊維大学国際学術交流クラブ」中国連絡事務所が設置されたことにより、中国国内だけでなく多くいるOB、OGのネットワークの強化を図るだけではなく、今後増え続けるであろう中国在住の、日本への留学希望者への情報提供や、アドバイス、また意見交換などがしやすくなるような拠点にしたいと思っています。

世界がもっと近くなること

韓国連絡事務所代表
嶺南大学校繊維フアッション学部
繊維ナノ素材専攻 主任 教授



具 剛
(93年卒)

今年の夏は蒸し暑かった。そして私の夏もまた非常に暑い夏であった。今年も変わらず韓日共同シンポジウムはKITの主催で開かれ、韓国から三十三名が日本を訪問しました。その際にお世話になった日本の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、KITから「KIT国際学術交流クラブ」大韓民国連絡事務所の代表者として一言コメントするよう依頼がありました。私は二〇〇四年五月にKITの韓国人OB・OG二十五名の名簿を整備し、現在は三十四名にまで至っています。そして、連絡事務所を設置し、嶺南大学校としてKITとの交流に力を入れています。普通、国際交流といえは相互情報交換あるいは学生交換などを考えるのですが、嶺南大学校とKITの関係から見ると何より東洋的な面からにしみ出る、人との信頼と責任感が大事なことが分かります。このシンポジウムの開催は年一回ですが、情報交換をし、共通の関心を持つことだけでなくお互いに健康と無事を伺うことからもっと親しみが生まれます。これが国際交流の始まりであることと信じています。

これまで嶺南大学校の代表的な姉妹大学と評価されているKITとの変わらぬ有益な関係がこれからも続き発展するよう希望します。

ベトナム連絡事務所設置にあたって

ベトナム連絡事務所代表
ハノイ医科大学 生化学部

タ・タイン・ヴァン
(99年卒)



二年前、世界各地のK-I-Tの元留学生の代表者が京都工芸繊維大学国際学術交流クラブを創設することに合意しました。

ベトナムのハノイ医科大学所属の私がK-I-Tを卒業したベトナム人留学生の連絡担当に指名されました。ベトナム人の元留学生のうち、五人がベトナムのハノイで現在仕事に従事しており、自分の職域で重要なポジションを得ています。二人 (Nguyen Thien Ngoc博士と私 Ta Thain Van) は同じ大学で働いており、他の二人 (Nguyen Ken Cuong博士と Tran Thi Thuy博士) は同じ機関で働いています。

幸いにも何人かは専門が同じですので、ベトナム政府から支援を受けて共同研究を立ち上げることが出来ました。加えて、互いに仕事のことや人生経験を分かちあう為にコミュニケーションをとり、また私達が成長したK-I-Tの研究室に関する情報もアップデートしています。これは継続する訓練の一種だと言ってもいいでしょう。

タイ連絡事務所設置にあたって

タイ連絡事務所代表
チャル・タイ・シルク有有限会社バンコク事務所

サイクワン・トリスナン
(95年卒)



今や誰もがやらねばならない最も大切な投資と言え、それは教育に関連したものでありましょう。我々は皆、自分自身、或いは子供のために、この投資を決め、実行しなければなりません。教育には財的投資を必要とする以外に、時間の投資も必要とします。ですから、最も適した学校を選んで投資を行えるよう、注意深く調査するようにしなければいけません。

教育が全てではありませんが、教育は一つの土台といえます。強固であればある程良い土台といえます。京都工芸繊維大学は、学校の規模は京都の他の大学に比べて小さいですが、遡れば、百年以上の永い歴史があります。日本政府によって設立された学校であり、科学と技術の分野でリードする大学の一つです。科学者、実業家として成功した多くの卒業生を輩出しています。

私は、京都工芸繊維大学の卒業生ということに大きな誇りを感じています。日タイ友好宣言調印百二十周年を祈念して、K-I-Tがより多くのタイ国の学生を教育し続け、そしてこの学校を通じて、両国の知識と文化がより深く交流することを願うものです。

台湾連絡事務所設置にあたって

台湾連絡事務所代表
台湾紅茶股份有限公司 執行經理

羅 吉平
(92年卒)



こんにちは私は台湾の羅と申します。名前は日本読みでキツベイ (Kobe) の方が読みやすいかもしれませんが。

一九八三年日本に來て日本語学校で日本語を勉強し、一九八五年の四月から我が母校の建築学科に入学しました。建築の基本教育を終え、更に造形工学建築構造の分野にも進ませて頂きました。振り返ってみると、あれこれももう十何年前のこと、時間の経過は本當に恐ろしいことです。気がついたら自分の子供も高校進学の時代になってきました。

この数年は情報伝達の速いインターネット時代、それに、文部科学省の国立大学法人化システムにより、学校運営方法は昔と大分違うようになりました。毎年海外諸国での留学フェアに駆けつけてきた後輩たちの質問と比較すると、私たちの時代は本當に単純でした。彼らは語学力はまだ足りなく、難しい研究テーマを目の前に重ね、留学生活は大分戸惑うでしょう。しかし、こんな回転の速い時代の中で学問を追求する後輩たちの姿を見ると、私たちの力で何か役に立つことはないかと思っていました。先輩とアドバイザーの立場である私が、日本サイトとの橋渡し役としてできる限りのことをやって行きたいと思えます。宜しくお願い致します。

2007年度日本留学フェアに出展

京都工芸繊維大学は、優秀な外国人留学生の受け入れを促進するべく、例年、アジア各地で開催されるJASSO（日本学生支援機構）主催の日本留学フェアに積極的に参加しています。今年度はこれまで、台湾（台北、高雄）、韓国（ソウル、釜山）ならびに中国（上海）のフェアに出展し、副学長ならびにスタッフを派遣しました。いずれの会場でも多くの高校生、大学生やその家族が本学ブースを訪れ、研究内容や入学試験情報、日本での生活について、熱心に情報収集していました。また、本学の元留学生が通訳として活躍し、実際の留学生活についてOBの視点からアドバイスも行いました。このフェアは、日本への留学を希望する若い学生に、本学の魅力を伝える場であると同時に、卒業生と本学を結びつける場ともなっているのです。

また、今年度からは、来訪者に配布するパンフレットとブースに展示するポスターに、本学留学生から公募したデザインを採用しました。

今後の参加スケジュールは以下のとおりです。同窓生の皆さま、ご都合が合えば是非会場にお立ち寄り下さい！

- ◆ タイ チェンマイ 11月15日 バンコク 11月17-18日
- ◆ ベトナム ハノイ 11月24日 ホーチミン 11月25日



詳しくはJASSOのホームページをご参照ください。http://www.jasso.go.jp/study_j/2007fair_j.html

外国人留学生実地見学旅行

2007年9月22、23日に外国人留学生実地見学旅行を実施しました。今回は、外国人留学生30名、外国人研究者3名、日本人学生3名が参加し、国際企画課のスタッフ3名を加えた、計39名という大所帯で播磨地方（兵庫県西部）と淡路島をバスで巡る旅となりました。

1日目は、損保之糸資料館さうめんの里、大型放射光施設（SPRING-8）、西はりま天文台公園を訪ねました。2日目は世界遺産の姫路城を見学した後、世界最長の吊り橋である明石海峡大橋を渡り、淡路島にある薫寿堂を訪ねました。

放射光施設の中では世界で3本の指に入る規模のSPRING-8を見学した参加者たちは、高度な技術力を目の当たりにし、日本での勉強・研究にさらなる意欲を燃やしたようです。西はりま天文台公園では、世界最大の公開望遠鏡「なゆた」とその充実した施設に驚きました。最後の見学先となった薫寿堂ではお香作りを体験しました。決まった形にとらわれず独創的な色や形の香を作る学生や、グループで協力し他とは違ったものを創り出そうとする様子に、工織大生らしさを感じられました。

今回の見学旅行を通して、参加者の親睦が深まったことは言うまでもなく、さらに今後の学修意欲の向上が期待でき、非常に充実したものとなりました。



博士課程留学生在(社)繊維学会論文賞を受賞

研究テーマ：Mechanical Properties and Higher Order Structure of the Bacterial Polyester Highly Oriented Films

環境問題の解決策として、高分子分野では生分解性プラスチックが注目されてきました。中でも、微生物の体内から得られ、また微生物によって分解できる微生物産生プラスチックは、生分解性はもちろん、生体適合性、省エネルギー形成などの性質をもつポリプロピレンと同等の性質を持ち、成型品への発展が期待されますが、結晶化速度が遅く、室温以下の低いガラス転移温度で成形性が非常に悪いと言われてきました。そこで我々はこの問題点の解決策を求めてこのテーマを選びました。最初の大きな課題は、どんな方法で延伸性を高めるかでした。それ以後は、できたフィルムの高次構造を解析するのが難しかったです。

今回の受賞については、全然期待していなかったのですごく驚きました。この受賞を起点としてもっと頑張ろうと思っています。またいろんな賞にチャレンジしたいですね。もっと研究に励んで技術を身につけ、いつかは自分が学んだことを後輩たちに教える先生になりたいです。自分自身については、平凡ですが、いいお父さん、いい夫になるのが夢です。



先端ファイブ科学専攻
(博士後期課程3回生)

李 在昌

国際学术交流クラブについて

このクラブは、本学の卒業及び在学外国人留学生、元・現国際訪問研究員、学术交流協定校の教職員など多くの方々により組織されている世界的なネットワークで、本学が国際社会の学術的な発展と科学技術の振興に貢献するための一翼を担うことを目的としています。

入会のお申し込み等についての詳細は本学のホームページをご覧ください。
http://www.kit.ac.jp/07/07_070000.html

ご意見・ご感想をお寄せください！

KIT International Journal をお読みいただきありがとうございます。皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。
✉ e-mail : ab7128@yml.kit.ac.jp

国際企画課

国際企画課は、国際交流センターに関するすべての事務を担当しております。皆様からのご連絡を課員一同お待ちしております。

